

NISHINOMIYA EBISU

西宮

えびす

平成22年
新春号

諸国探訪／豊中えびす神社

十日えびす

えびす瓦版

新年あけまして
おめでとうございませす

西宮神社 宮司 吉井 良昭

年

頭にあたり、謹しみて皇室の弥栄を
寿ぎ奉りますとともに、氏子、各講
買そしてご崇敬の皆様方の益々のご隆昌を
お祈り申し上げます。

若き芭蕉(芭蕉と名乗る十数年前)の句で
す。新年の忙しさに年を取るのも忘れてしま
われるのか、毎年配られるお礼のえびすさま
のお顔は一向に年を取られない「若えびす」と
いつた句でしょうか。

江戸時代の町人の生活や商売をする上での
の智恵などを生き生きと描いた井原西鶴の
「日本永代蔵」は三十の短編からなり、当時
の折々の信仰、日常の中の信仰の様子が随所
に記されています。その中でもえびすさまや
えびす信仰に関わる箇所が一番多いようです。

このように新年の朝一番に福を招き入れ、一年
の幸せをえびすさまに祈っていたわけでは
なくて、この句が詠まれる三年前、寛文三年
(一六六三)に造営された当社の本殿は、惜し
くも戦災により烏有に帰してしまいました。

例えば、「朝えびす」「えびすの朝茶」……
えびすさまには朝早くお参りする信仰があ
り、それに因んでえびすの朝茶で大儲けとい
うお話。また「若えびす」……これは福を呼
びこむえびすさまのお姿を描いたお礼を元
日の朝早くに配る者で、元日にはかかせない
ものでした。その他にも「十月二十日のえび
す講」「宝船」「正月十日」の祭りなど町人の
生活と密接に結びついていたえびすさまがあ
ちこちで登場します。

その後昭和三十六年秋に現在の本殿が変わ
らない規模で再建されました。平成二十三年
には本殿再建より五十年を迎えることとな
ります。本拝殿の改修、神池の改修、祈禱殿
の建設の三つの柱で記念事業を計画致してお
ります。経済動向の定まらぬ時勢で誠に恐
縮はございますが、皆様方からのご浄財を
お願いする次第でございます。

「若えびす」は芭蕉の句にもあります。
年は人にとらせていつも若えびす

本年も「朝えびす」「若えびす」のよう
に生き生きとした、力強いえびすさまの御神徳
をお受けになられ、招福の良き年でありま
すようご祈り申し上げます。

「若えびす」は芭蕉の句にもあります。
年は人にとらせていつも若えびす

年は人にとらせていつも若えびす

本年も「朝えびす」「若えびす」のよう
に生き生きとした、力強いえびすさまの御神徳
をお受けになられ、招福の良き年でありま
すようご祈り申し上げます。

豊中えびす神社

〔鎮座地〕大阪府豊中市服部元町 宮司 加藤芳哉 氏

当社は足の神様で知られる服部天神宮の境
内に鎮座しています。

始まりは、昭和二十五年秋、当時兵庫県宝
塚市の花屋敷にあった「繁昌稲荷社」の社殿
を譲り受け、服部天神宮の境

す講員並びに福娘であり、福娘は毎年公募に
より選出されています。最近では新聞での広
告だけでなく、インターネットから調べてこれら
の方々も増え、地元近隣も含め各地から応募

本文化、伝統行事を身近に体験してもらうべ
く、現在でも福娘の選出は続いておりま
す。当日までの催しとしては六日に福笹の
用意が福娘、笹付けにより行われ、前日にはえ
びす祭の飾り付けを行った

成せられ、えびす講を中心と
して、豊中商工会議所をはじ
め、市内市場、商店会並びに
商売繁昌を祈願する参拝者
により年々賑わいを呈してお
ります。

があり三十名ほどの福娘が選ばれています。
平成九年のえびす祭の時には初めて外国の
方からも福娘として御奉仕頂き、以来、国際
交流の橋渡しになればと留学生枠を設け、日

して親しまれ、えびす大神さまの
御神威により豊中の商業の繁栄に
もなりますよう、氏子、講員と共に
奉仕に励みたく思っております。

近年では近隣のみならず
広範からの参拝者も多く訪
れることから、豊中のためとの思いにより平成
十五年に社名を「豊中えびす神社」と改称
し、現在に至っております。

餅授けを行います。
平成二十二年で六十回
目のえびす祭を迎え、今後
さらに豊中のえべつさんと

餅授けを行います。
平成二十二年で六十回
目のえびす祭を迎え、今後
さらに豊中のえべつさんと



豊中えびす神社



福笹付け始め式

餅授けを行います。
平成二十二年で六十回
目のえびす祭を迎え、今後
さらに豊中のえべつさんと

福笹



十日えびす

平成二十二年一月九日(土)・十日(日)・十一日(祝)

今年の十日えびすは三日間を通じ土曜日曜祝日にあたり、大勢の参拝を予想しています。



復興した逆さ門松と三田分社の皆様



居籠の圖



有馬温泉献湯式



平成21年福男

逆さ門松を復元

昨年度より西宮神社三田分社の皆様にご協力をいただき古文献に見える逆さ門松を復元致しました。本年も拝殿前に設置致します。

十日えびすと誓文祭

新春にえびす様のご加護を祈願する祭典が十日えびすならその対にあつてえびす様のご加護に感謝する祭が誓文祭(誓文払い)です。

古来商家では日ごろご愛顧をいただいているお客様に感謝の意を込め、旧暦の十月二十日のえびす講の日に合わせ大安売を行っております。

また商家に限らず各家庭では特別のご膳を仕立ててえびす様にお供えし、また同じものを食べることでえびす様に今年一年のご加護を感謝しました。



11月20日落語家の嘶を交えての直会

当社におきましては祭典に合わせ古記録から復元した江戸時代の古式神饌をお供えするとともに、直会のお席で古式神饌にちなんだ特別料理を参列者の皆様にお召し上がり頂くながら落語家の嘶をお楽しみ頂いています。



『日本永代蔵』に見えるえびす講。床の間にえびす様の掛け軸とお供えがあります。

古式神饌図解

◆一ノ御饌
蒸米・蕪・鯛ヒレ・小串等



◆二ノ御饌
堅魚・銀杏の串刺し盛り等



◆三ノ御饌
鯛鴨羽もり・海老舟もり等



古式神饌



招福大鮪奉納



年末年始行事スケジュール

12月31日 16時	大祓式(西宮神社)
31日 18時	除夜祭(西宮神社)
31日 20時	除夜祭(住吉神社)
1月1日 6時	歳旦祭(西宮神社)
1日 7時	歳旦祭(住吉神社)
2日 10時	奉射事始祭
3日 9時 30分	元始祭
5日 11時	百太夫神社祭
7日 10時	昭和田皇祭遣拜式
8日 9時頃	招福大鮪奉納式
9日 14時	有馬温泉献湯式
9日 16時	十日えびす宵宮祭
10日 4時	十日えびす大祭
11日	残り福
11日 11時	成人祭
15日 10時	十日えびす報賽祭

新春ご祈願の受付

正月十日えびすは特別に本殿にご昇殿頂いてご祈禱をご奉仕致しております。えびす様のご神徳を受けられますよう新春のご祈禱をお勧め申し上げます。

※ご祈願を受けられた方には当年の誓文祭のご案内を差し上げます。また、一日の午前〇時から午前六時までご祈願を受けられた方には特別に「干支神楽(土鈴)」を、また十日えびす期間にご祈禱を受けられた方には西宮神社社会館でご休憩いただける「お茶券」をお渡し致します。

◎祈禱受付時間

一月二日 午前〇時〜午後六時三十分
二・三日 午前九時〜午後六時三十分
九日 午前八時〜午後十一時
十日 午前六時〜午後十二時
十一日 午前八時〜午後十一時

えびす瓦版

時の西宮神社用日誌を
ひもとく「えびす瓦版」
今号は宝暦十年
(西暦一七六〇)に
記された社用日誌です。



神主 吉井和泉守(式部) 祝部 大森善太夫 祝部 廣瀬右内 神子 紅野次郎大夫
 社家 東向齋宮 大森主膳 堀江左門 大石長大夫
 大森主水 橋本右門 瓶子源兵衛
 田村伊左衛門 社役人 辻佐内

藤沢寺遊行上人社参す

二月二十七日、兵庫(観音堂)一遍上人廟所から藤沢への帰路、遊行上人が社参する。伴僧が拝殿當番の田村伊左衛門に申すには、上人は当社へ先格にて社参されており、これは往古に当社で御靈験を蒙られたことがあり、以後格(きまり)に致し通行のときには毎度参拝し



藤沢市・清浄光寺

ていると申す。また寺の縁起にもその旨が記してある由。御初尾として青銅貫文を奉納される。尚、文政十年(二八二七)三月にも社参が記されている。

一遍上人は兵庫和田岬の観音堂(現真光寺)で示寂された正応二年(二二八九)の二年前に当社に参拝されたと伝えられている。



同寺 一遍上人像

表大門(赤門)彩色す



赤門

予てより大坂曾根崎新地二丁目に住む屏風屋儀兵衛と申す彩色師職人に表門の彩色を依頼していたところ、八月五日に見積もりのため来社する。足代(旅籠代共)

は神社より下す。絵具代と手間料は都合百五十匁と申すのでこれに申し付ける。十二日より職人が参り彩色に取り掛かる。

夷講と誓文祓の御神事

十月二十日の御神事は往古より行われているが、僅かの御膳を献上するだけで本意に背き、前神主も兼々取立てるように思っていたが今もって同じ事である。諸国では夷講を営んでいるが、本社ではそのようなこともなく申し訳ない事である。俗に誓文祓と申し、当社では古来「うけひ祓の御神事」として伝わっている。二兩年の内はこの御神事を取立てたいとの旨を神主より社中一同へ相談し、諸方へ広める一枚摺りを読み聞かせる。

六甲山鎮守に鳥居

六月に町方より六甲山石の宝殿に鳥居が建てられていると知らせがあり、祝部兩人に見分に行かせたところ確かに宝殿より三間ほど南に高さ四尺七寸の鳥居が建てられていた。七人の者が雨乞成就の御礼のために建てた由。尼崎寺社方へこれを届け出ると取り払いを申付けられる。一方打出芦屋村からも敷地支配の地面なので取り払うようお願いがあつたがこのたびは地面のことではなく、公儀御差支えのことなので八月四日に祝部らが再び山に登り鳥居を取り扱った。

尾州名古屋方面からの御修理工料一覧

山本主膳	八貫二二六文	濃州、丹羽郡、中嶋郡、海東郡、桑名町中、知多郡、勢州
古田兵馬	四貫三三九文	木曾、濃州村々、海東郡、春日井郡
木村伊織 預	二貫八六三文	勢州、海東郡、羽栗郡
鳥居内匠	二貫五八二文	春日井郡、丹羽郡
大井主膳 預り場	二貫三五〇文	中嶋郡、西春日井郡、愛知郡
藤井民部事金吾	二貫五三五文	海西郡、桑名御領分
三宅小太夫	三貫二二八文	知多郡、春日井郡、東春日井郡
伊藤勤ヶ由	二貫五百文	濃州
柴田三左衛門	金一分二〇〇文	愛知郡
飯田多宮	二貫五二六文	中嶋郡、海東郡、愛知郡、岐阜、犬山
伊藤大膳	金三分二五〇文	知多郡、丹羽郡
漆原左近	二貫八五文	桑名御領分、愛知郡、丹羽郡

(宝暦十年「辰之年御修理工料帳」当社蔵より)

献上「巻数」を「祝詞」と改める

毎年節供には、貴船社、生田社、住吉社共々尼崎城へ登城し、殿様に御祈禱巻数を献上している。五月五日神主は尼崎寺社方へ次のように申達した。即ち「この巻数とは読経の巻数を書き記すことで出家のことである。私共は神前へ申し上げるので今後は祝詞と書き付けたい」と。これに「可然」と申される。その後、前三社と宿に揃っていたところ江戸にて松平安房守様奥方(殿様の御妹子)が御死去になられたので本日の御礼は止めるとの連絡が入り各々帰路に着く。

江戸支配所より

八月十九日出の
支配所からの書状九月六日到来

寺社御奉行松平周防守様が大阪御城代になられ、跡役には松平和泉守様が就かれた。これにつき、後日尼崎寺社方から同名により変名の儀(神主吉井和泉守)を窺われるが、当社の場合には勅許の儀につき伝奏方に窺うこととする。御伝奏廣橋前大納言様へ同様が特に御指図になられず、帰国の上地頭表(尼崎)の様子次第にするようにとのことであった。その結果「式部」と変名する。

十二月十六日出の
支配所からの書状が同月廿五日に到来

江戸寺社御奉行阿部伊予守が京都御所司代になられ、跡役には大田撰津守様で御屋敷は新し橋である。

その他の出来事

正月廿四日 松原天神の御社、修覆成就につき正遷宮。古材は市庭弁才天社の修覆に用いる。
 三月廿三日 殿様(松平忠色)、兵庫津の帰路御社参
 三月廿七日 神主は久世主水を連れ、大坂奉行所へ大坂三郷町中へ神像札を配る願書を差出す。
 五月十一日 大坂御奉行奥津能登守御社参(順見)
 十一月十四日 當国御領御巡見衆が西宮驛に御宿(社参はなし)

四百年ぶりの「産宮参り」を復興

前号でお知らせしましたとおり、平成二十三年九月二十三日えびす様がおよそ四百年ぶりに神戸の和田岬へお渡りになる「産宮参り」を復興いたしました。ここで当日の賑々しいお祭りの様子をご報告したいと思います。

古式さながらにえびす様が和田岬へご神幸

前日から心配されていた雨雲も晴れ、爽やかな秋空のなか、ご本殿にてご神体を神輿にお遷しする発興祭を斎行。総勢五四〇名が一路和田岬へ向う渡御祭が始まりました。

神社を出発した一行は新西宮ヨットハーバーへ移動。ご神体を奉じた御座船を中心に四隻の渡御船が出港します。途中お前浜沖にて「かざまつり」を斎行。本年は開門神事福男選びで認定された福男が海上に切麻を撒き航海の安全を祈願しました。ヨットハーバーを出発しておよそ二時間。神戸市兵庫区の和田岬へ到着し船旅を終えた渡御船団は引き続き陸路をお旅所の和田神社に向います。時代装束に身を包んだ賑々しい行列が和田神社に着くころ、和田宮だんじり保存会、また当社氏子青年会「若戎会」の賑々しいだんじりの練り合わせ奉迎を受けました。

引き続き和田神社、三石神社の関係者の「ご参列のもと」「お旅所祭」を斎行するとともに各種賑行事奉納。また、行列供奉者代表はえびす様とご縁がある和田神社三石神社両社を参拝。続いて海上渡御と縁り深い一遍上人の墓所真光寺に参拝してのち一行は西宮帰着。えびす様がご本殿にお帰りになる「還御祭」を斎行し、渡御祭をとり納めました。



供奉参列者そろっての記念撮影



一遍上人墓所前にて神事を奉仕

和田宮だんじり保存会と若戎会のだんじり練り合わせ

本殿復興五十年記念境内整備事業



西側から見た祈禱殿



祈禱殿はご本殿を遷すかたちで北側に神殿を設けます



東側から見る祈禱殿



参道鳥居から臨む祈禱殿

去る昭和二十二年八月、先の大戦のおり西宮を襲った焼夷弾により国宝本殿が烏有に帰してから十数年、昭和三十六年に復興なつたご本殿は平成二十三年に五十周年を迎えます。この佳節にあわせ当社では境内整備事業を計画いたしました。

当事業では神殿調度など本拝殿周辺の修復、また神池の浄化を行うとともに祈禱殿の建設を計画致しております。

境内整備事業にご奉賛のお願い

本事業を遂行するにあたり氏子崇敬者の皆様のご奉賛をお願い申し上げます。ご奉賛頂いた方は、ご芳名を本殿内に永年保存いたしますとともに正式参拝証と本事業の記念誌を贈呈致します。

※その他の待遇につきましては別表をご参考下さい。

記念事業の概要

- 一、本殿・拝殿の改修
- 一、神池の改修
- 一、祈禱殿の建設
- 一、本殿調度の新調
- 一、その他

◎総事業費 七億円

ご奉賛者の待遇について

奉賛金額	ご芳名 永年保存	正式 参拝証	記念誌	記念品	奉祝祭 ご案内	感謝状	石玉埋 に刻名
五千万以上	●	●	●	●	●	●	●
一千万以上	●	●	●	●	●	●	●
五百万以上	●	●	●	●	●	●	●
一百万以上	●	●	●	●	●	●	●
五十万以上	●	●	●	●	●	●	●
十万以上	●	●	●	●	●	●	●
五万以上	●	●	●	●	●	●	●
五万以下	●	●	●	●	●	●	●

記念事業に関する主な祭典

- 平成二十二年二月に祈禱殿地鎮祭
- 平成二十二年十二月祈禱殿竣工祭
- 平成二十三年五月に仮殿遷座祭
- 本拝殿修復に際し、ご神体を仮殿(神輿殿)にお遷しします。

平成二十三年九月本殿遷座祭・奉祝祭
本拝殿修復後にご神体をお戻しし、えびす様に事業の完遂を奉告致します。
詳しくは西宮神社社務所
(TEL 0798-333321)まで
お問合せ下さい。



平成二十三年に復興五十周年を迎える本殿



えびすトピック

● えびすの森を守れ！ 楠の苗を社叢に植樹

えびす様の神域にうつそうと茂る兵庫県天然記念物「えびすの森」は西宮神社の鎮守の森として、また都会のオアシスとして大切に守られています。



複製苗の引き渡し

来植物の侵食により徐々に生態系が変化し環境維持が難しくなりつつあるのが現状です。
こういった状況のなか、平成十六年より神戸大学大学院准教授の石井弘明さんの指導による森林の再生活動がスタート。同年から外来種のシロ口、枯れ枝の除去作業を行うと共に地域住民への啓蒙活動としてえびすの森の散策、森林の清掃作業などが行われてきました。
また活動の環として、独立行政法人材木育種センター関西育種場にて境内の樹齢百年を超えるクスノキの老木から苗の増殖に成功。去る三月四日に同センターから当社へ増殖苗の引渡しを行いました。今後適当な大きさになるまで神社内の苗床で大切に育てます。

● 第二回新潟懇親会を開催

去る十月二十四日、ホテルオークラ新潟市にて第二回新潟県配札分霊関係者懇親会を開催致しました。年に一度神職が各地へ出向し、えびす様のお札「御神影」を頒布される方、また当社からえびす様のご分霊をお祀りされている方々をお招きする会で、

新潟での開催は平成十五年以来となります。今回は第二回にあたり御神影の頒布方法の検討などについて貴重なご意見を頂きました。今後も全国各地へこのような会を行い、伝統継承に努めてまいります。



第2回新潟県懇親会

● お子様への健やかな成長を祈って、初宮参り祈願者へ産子守を特別授与

福の神様えびす様にお子様のご誕生を奉告し、日々のご加護をお祈りする「初宮参り」。

この度、初宮参りのご祈願を受けられた方には、お子様のお名前を刺繍した特別のお守り袋に納めた「産子守」をお送りしております。また中に納めております産子守は授与所でもお分けしておりますので毎年新しい産子守（体三百円）をお受け頂き、末長く大切にお持ちいただけます。
お子様が健やかに幸せにご成長なさいませう、ご案内申し上げます。

- ・初宮折禱 祈禱料 五〇〇〇円
- ・初宮大折禱 祈禱料 一〇〇〇〇円

※初宮大折禱はご祈願の際神楽を奉奏いたしますと共に、三歳までお誕生日に合わせ産子守をお送り致します。



お守り袋にお子様のお名前を刺繍します



産子守

ち下さい。神棚にお供え頂いても結構かと存じます。

Q 来年厄年なのですが、厄除けのご折禱はいつごろ受ければよいのでしょうか？やはり誕生日を過ぎてからの方がよいのでしょうか？

A 日本では昔から生年を二歳として一月一日を経ることに一歳を加える「数え年」が基準でした。七五三や十三参り、還暦といった人生儀礼もこの数え年が元になっています。厄年のご祈願も数え年の例に倣い厄年に当たる年の始めにお受けになるのが結構ではないでしょうか。

当コーナーでは、引き続き皆様のご質問をお待ちしております。えびす様にまつわるご質問から神社一般のご質問まで、どんなご用件でも結構です。

◎ご質問は郵便もしくはFAXにて
〒662-0974 兵庫県西宮市社家町
一十七西宮神社文化課 広報係
(FAX)079-8-3335(35)まで
お願い致します。

携帯電話から情報をも！



昨年末から、携帯電話から情報を取得していただけるよう、サイトを開設致しました。

初詣、十日えびす期間中の行事案内やトピックス情報、そして参拝の方々には、境内地図をお示ししながら目的の場所をお知らせします。

帰り道のご案内、さらには十日深夜の開門神事福男選びの受付状況なども、お知らせできるものと思っております。下記のアドレスへアクセスしてご利用下さい。



<http://www.nishinomiya-ebisu.com/m/>

えびす

Q 先日西宮神社での結婚式に参列しました。その際お神酒をいただいた盃をお納め下さいといわれたのですが、今後どのように扱えばよいでしょうか？

A 当社に限らず神前結婚式に参列されたあと結びの盃、固めの盃で使った盃を持ち帰るケースがあるかと思えます。

神前結婚式とは、新郎新婦が神様に結婚の奉告をし、生涯連れ添うことを誓うとともに両家の繁栄を祈願するものです。ご神前において神聖なお神酒をいただくという事は神様にお誓いした二人の決意を重ねて示し、より強固なものにする意味合いが込められています。

お納めいただいた盃はその誓いの証であり、今後とも大切に持

「献備講社入講のご案内」

毎年全国各地から参拝者がお越しになる正月十日えびすに合わせ、献上のお品をご奉納頂いております。崇敬者を中心に平成十九年に平成十九年に結成致しました。



本殿前の献備講社芳名板



拝殿にご芳名とともに供奉いたします

十二日の期間ご参拝の際には昇殿にてご祈禱をご奉仕致します。また境内におきましては献備講員の皆様の芳名を看板に掲示いたします。

お問い合わせは西宮神社講務課までお願い致します。

開門神事講社講員募集

毎年二月十日の午前六時、大太鼓の合図とともに赤門が開かれると門前で待つ約四千人が走り参りを行う「開門神事福男選び」。年々大勢の参加者が集い賑々しく斎行致しております。

本講は開門神事福男選びを安全かつ円滑に行い、伝統行事を継承及び発展させることを目的とする講社で、主に開門前夜の抽選会や、開門直前の参拝者の安全確保等各所でお手伝いを頂いております。

ご興味のある方は西宮神社開門神事講社事務局まで
【講金】年間千円
お問い合わせ下さい。



南門前での抽選会



赤門を開く講員

編集室から

この度四百余年の時を経てえびす様の産宮参りを復興致しました。現代に再現する事が出来ましたのはご助力いただきました氏子崇敬者の皆様のお力添えあつての事とここに御礼申し上げます。

さて、三重県の伊勢神宮では平成二十五年に二十年に一度の式年遷宮をお迎えになることはすでに過去の紙面でもご紹介いたしました。が、当西宮神社も五十年おきに修復事業を行っております。

おりしも戦災による本殿復興から四十余年。昭和から平成と激動の時代を見てきた本殿も来たる平成二十三年にご神威も新たに「蘇り」を致します。どうぞえびす様のご神慮をお慰め頂きますようご奉賛のほどお願い申し上げます。



西宮神社本殿

えびす NISHINOMIYA EBISU 平成22年新番号

西宮えびす 平成22年新春号(通巻第32号) 平成21年12月1日 発行
発行/西宮神社 Home: 061-74 兵庫西宮市社家町1-17 電話0798-63-0032 FAX 0798-63-0030

編集/文化課広報 印刷/小西印刷所

お問合せは西宮神社(TEL 0798-63-0032)各担当までお願いします。